

埼玉の夜明け

第47巻
第3号
通算147号

日本キリスト教団
関東地区委員会
社会委員

第47回信教の自由と平和を守る二・一一集会

社会主義国家を生きるキリスト者

～中国の教会と信教の自由～ (要旨)

桜美林大学チャプレン 薛 恩峰



共産党が支配する国家体制の中で近年急増するキリスト教徒。教会に対する党の姿勢も時代によって変化してきたように見えるが、宗教は共産主義に対立するものという基本的な宗教観は変わらぬ。対立する党・国家と宗教、この構図の中で中国のキリスト者は生きている。

1. 日本との出会い

「日本語の聖書をお持ちですか」「持っていますよ」

「見せてくださいませんか」

「どうぞ、これです。本日の記念にこの聖書を差し上げます」

「本当ですか、ありがとうございます」

これは、三三年前に独学で日本語を身につけた私と偶然に出会った中国教会訪問団の日本人牧師と交わした会話です。思いがけなく、この出来事が私を日本留学へと導くことになり、一九八六年に来日、同志社大学大学院で神学を学びました。牧師・幼稚園園長、日本クリスチャン・アカデミー所長などを経て、現職に至っています。日本に暮らした歲月は、中国の

それよりも長くなりました。微力ながら、私の二つの故郷である「日本と中国」の人々の相互理解と交流を深める機会を自分の足元から増やしていきたいと願っています。

2. 中国の教会と信教の自由

二〇一四年春以来、浙江省では省政府が違法建築を理由に温州市の三江教会を取り壊したり、地元教会の十字架を強制撤去したりする事件が数多く発生しています。今回の迫害は、文化大革命後に発生したもので最大規模であり、キリスト教への取り締まりの強化の現れと指摘されています。

◆倒錯した世界観として宗教を否定
現代中国における信教の自由を深く理解するには、中国共産党(以下、党と表記)の宗教観を知る必要があります。

毛沢東は、マルクスレーニン主義を指導理念として一九四九年に社会主義の中華人民共和国を建国しました。宗教を倒錯した世界観として批判し、無神論を主張するのはマルクス主義の宗教観の特徴です。毛はキリスト教の宣教活動を中国に対する精神的侵略・文化的侵略と認識し、「共産党員は一部の観念論者とはかりでなく、

宗教家とさえも政治行動の上では反帝・反封建の統一戦線を樹立できるが、彼らの観念論や宗教教義には決して賛成できない」と指摘しました。

党は、マルクスレーニン主義と毛沢東思想を憲法に書き込み、国家の指導的思想と定めました。従って、その宗教観も国家のイデオロギーとなって、宗教政策の形成と国民の宗教活動に決定的な影響を与えるものとなったのです。

党の文献を解析してみると、党は社会主義社会における宗教の存在を容認しているものの、宗教はあくまで古い社会が残した旧思想であり、「いずれ人類史上から消えていくもの」と位置づけているのがわかります。

中華人民共和国が建国されて以降、党のこのような宗教政策の下、キリスト教徒は外国ミッションとの関係断絶を余儀なくされ、共産党の指導のもとに、自養、自治、自伝を目指す「二自愛国運動」を通して自己改造を迫られました。さらに文化大革命中は大規模な迫害を受け、宗教活動はすべて禁止させられました。

◆急増する信者に危機感を持つ党

その文革が終息した後、八二年に憲法改革・開放政策の下で国民の宗教活動が許されるようになり

ました。密告や迫害、階級闘争を繰り返す文革の苦しみを体験した多くの人は共産主義に失望し、新たな価値観を求めてキリスト教の教えに耳を傾けるようになりました。八〇年代以降、海外との交流が増す中でキリスト教ブーム到来と、それに伴う教会の成長には目を見張るものがあります。なんと聖書印刷部数は二〇一二年に一億冊を越え、世界一となりました。

二〇一〇年の中国社会科学院の統計では、プロテスタント系の信者が二三〇五万人です(総人口の一・八%)です。政府系の研究機関による統計なので、この数字は「過少だ」との指摘が国内外から多くなされていますが、単純に比較しても四九年の建国当初の三〇倍に当たります。ちなみに、二〇一四年四月、米パデュー大学の楊鳳崗(ヤン・フェンガン)教授は中国のキリスト教徒が二〇三〇年には二億四七〇〇万人に達すると予測しています。これは、「いざれ宗教は人類史上から消え去っていくもの」と主張する党の信念とは正反対の展開であり、党は信者の増加に危機感を抱いているに違いありません。

宗教信者は国民であり、宗教団体は客観的に存在する社会実体です。イデオロギー的にも、社会組

織としても、政治力としても現実
に存在しているため、党は宗教を
社会主義社会に適応させなければ
ならないことを重要な政治課題と
し、宗教団体への指導と管理を強
化しつつあります。

確かに憲法上では、表面的には
宗教の自由が認められているかの
ように思えます。しかしますます
明らかになってきたのは、宗教に
関する党の理論と方法論とは現実
に至ってもマルクスの宗教観の範

疇をはみ出すことは一步もないと
いう事実です。宗教に対して、あ
る時期に急進的政策を取ったり、
ある時期に穏健な政策に戻ったり
してきましたが、前提とする立場
まで投げ捨てたわけではありません
。党は無神論を信奉し、いかな
る宗教も価値あるものとして認め
ていません。浙江省における今回
の暴挙一連の動きは、その点を世
界にあらためてあきらかにするも
のとなりました。

もう一つ、中国のキリスト教を
語るときに無視できないのは、
「非登記教会」の存在です。政府
に登録しない教会は非合法教会と
されます。しかし、教会の主権は
神に属するものと信じ、三自愛国
運動に加わらず政府の管理と干渉
を拒む非登記教会（「家の教会」
「地下教会」）が多くあり、海外と
の関係を持ちながら発展していま
す。「公認教会と非登記教会とは、
一体どちらが中国の教会を代表し

主張

我が国に不穏な動きが漂う。
安倍首相は就任以来、「戦後レ
ジームからの脱却」が必要だと
して、改憲を主張し、戦前の
「二等国日本」を目指している。これは正に「戦争
ができる」国づくりである。明治維新以降、羸弱
な基盤しか持たない日本は、列強帝国主義と伍す
道を歩み、日露戦争の勝利を機に、「一等国日本」
という差別構造を築き上げた。そこには富国強兵、
殖産興業のもと、強い日本をつくる可く、軍事拡
大を目指した軍人育成、帝国大学（国策大学）に
よる官僚育成での、中央集権的な組織づくりが
あった。明治二二年大日本帝国憲法公布、明治二
三年教育勅語発布をなし、皇国史観の礎をつくり、
皇民化政策のもと帝国主義をつくり上げ、結果、
先の大戦で多くの戦死者、犠牲者を出すに至った
我が国の過去を忘れてはならない。この歴史を検
証することなく、安倍首相は途方もない方向へ日
本を向かわせている。改憲草案においては、欺瞞
に満ちた「緊急事態条項」による基本的人権の制
限、個人主義を助長するとし「個人」を「人」に
変え、家族を社会の自然かつ基本的な単位とする

戦前の家父長社会への逆行等、忌まわしい中央集
権化を進めることが構想されている。私たちは、
戦後続いた「戦争しない国」を守り続けたい。何
故、安倍首相は我が国を戦前に戻したいのか、理
解できない。戦前の「一等国日本」を目指し、民
主的統制を排除したがる安倍首相は、国民主権の
原理から乖離した、心の貧しい「良心」なき国民
をつくり上げることになることに気づいていない。
社会がどのように自己を受け入れてくれるか、自
分の行動が社会にどのような影響を与えているか
について、人間は無関心であることはできないの
であり、人間のある断面だけしか見るだけではな
く、「人間」を見る視野が必要だ。かつて、サルトル
は、「歴史が自己を認識することなしにつくられ
つつある時代」として現代を特色づけたが、現代
ほど過去の歴史を実証分析することなく、また未
来への展望が定かではない時代はないと言える。

「わたしのはらわたよ、はらわたよ。わたしはも
だえる。心臓の壁よ、わたしの心臓は叩く。わた
しは黙していられない。わたしの魂は、角笛の響
き、関の声を聞く。」エレミヤ四…一九

4. 両親の信仰を 引き継いで生きる

文革中、「宗教は人民のアヘン」
と認識され、紅衛兵は、「革命無
罪」のスローガンの下で教会破
壊、信者迫害を行いました。多く
の牧師は批判の対象となり、強制
労働をさせられ、投獄されました。
父は咸陽教会の牧師です。国内
の他の教会同様、咸陽教会も例外
なく閉鎖されていました。家宅捜
査を受けて、父の聖書、医学書等
はことごとく燃やされました。教
会を奪われ、つるし上げられた両親
は辛酸をつぶさになめました。

父は肉体労働で家族を養いなが
ら、毎日朝晩に祈っていました。
夜、父がひざまづいて祈っている
のを見つつ、私は眠りにつくので
すが、朝起きると、すでに同じ姿
勢で祈り始めていたものでした。
一九八〇年以降、父は教会のた
めに精力的に走り回り、没収され
た教会堂を取り戻すために、役人
と粘りつよく交渉を重ね、元の教
会用地を占領している住民を説得
しました。そのために父が再び苦
労する姿を、私は見ていました。
ある住民に教会用地の返還を求め
たために、ひどい脅迫を受けたこ
ともありました。母や兄弟たちは
父の身の安全を非常に心配してい
ましたが、父はまるで何事もな
かったように返還を求め続けてい
たものでした。

父は教会の復活を信じて祈って
いたに違いありません。その祈り
は叶いました。一九八三年、工場
や住宅に転用された教会の土地を
一部取り戻して、まず待ちに待っ
た礼拝堂を建て、五人の信徒と礼
拝を再開しました。
その後二回増築を行いました
が、なかなか信徒の増加に追い付
かず超満員のため礼拝堂に入れな
い信者たちは、寒い冬も暑い夏も
スピーカーから流れる説教を聞き、
礼拝堂の外で礼拝を守るとい
う状態が長く続いていました。
「みんなが屋根の下で礼拝でき
るようにしたい」と、信徒の祈り
が大きな動力となりました。二〇
〇九年二月、数多くの困難を乗

り越え、一〇〇〇人を収容できる
礼拝堂がついに献堂されました。
現在、咸陽教会は、二〇〇〇人の
教会員を抱える教会にまで成長し
ました。

牧師の子であるために、いじめ
られたり、差別されたりすること
が、私たち兄弟には珍しいこと
はありませんでした。ある時、密
告により、兄の明るい前途が断た
れたのを知った私たち兄弟らは、
怒りを抑えきれず力で仕返しをし
ようと思いました。しかしその時、
両親から「苦しいだろうが、復讐
は決してしてはならない。神様は
すべてを見ておられるから」と戒
められました。

どう考えても納得のいく話では
ありませんでした。ところが、後
に、悪を放棄することは悪の循環
を断ち切る唯一の道だと悟った時、
イエスの教えを忠実に守った両親
の姿がとても微笑ましく、強いの
だと感じました。人間が互いに
闘争を激しく繰り返したあの時代
にもっとも必要な考え方だったの
ではないでしょうか。この体験を
通じて、両親の信仰を引き継いで
生きようと私は心に決めました。

私が中国キリスト教のために、
皆様に証言したいのは、イエス・
キリストに対する信仰です。この
信仰は、中国のキリスト者にとっ
てはかけがえのないものです。主

イエスの復活は、死んで再び立ち
上がるという出来事でした。「宗
教はすでに歴史博物館に入った」
と、文化大革命時に宣言されまし
た。確かに表面的には、全ての宗
教施設や活動を一挙消滅すること
に成功したように見えたが、
それは人間の思想と信仰の自由を
も真に消滅したことには決してな
り得ませんでした。こう言えるの
は、激しい迫害と弾圧を受けて
も、多くのキリスト者は決して信
仰を捨てることなく、ひたすら神
に熱心に祈り、キリストと共に生
きつつあった事実を、私自身がよ
く見てきたためでもあります。

今、教会は中国の地で再び復活
しました。これは信仰の勝利では
ないでしょうか。したがって、
「復活」は中国キリスト者の体験
を最もよく言い表す言葉でもあり
ます。復活の真理は、私たちに命
が得られるのは、喪失、貧困、苦
難と死を通してからであること
を告げています。復活の真理は、命
が財産や富や権力に依存するの
ではなく、命の主なるよみがえりの
イエス・キリストに頼ることを告
げているのです。

過去の歴史を振り返ることは、
未来への責任を担うことでもあり
ます。願わくは、私たちが中国キ
リスト教の歴史から多くの教訓と
学びを得ることができまますように。

第二回社会活動委員会で 「高江、森は泣いている」 の映像をみて

埼玉大通り教会 沼田 祐子

一〇月の委員会で、映画「高
江、森は泣いている」を皆でみて
学びあうプログラムがありまし
た。

この映画は、沖縄本島北部にあ
る東村高江の集落に隣接する在日
米軍の北部訓練場に、やんばるの
森を切り開いて新たに六つオスプ
レイの着陸訓練帯（ヘリパット）
が作られようとし、工事を阻止す
るため、非暴力で座り込みをする
住民や支援者たちの二〇一六年七
月から八月月上旬までのドキュメン
トです。

米兵による度重なる犯罪への沖
縄の人々の激しい抗議から、一九
九六年に「基地の整理縮小」を掲
げて日米両政府によって『2000合
意』が結ばれました。そこに北部
訓練場の過半の返還に伴い、返還
区域にあるヘリパットを移設する
という内容も含まれていました。
二〇〇七年になって住民に説明も
なく高江の集落を取り囲むように
ヘリパット移設が計画され、住民
は納得する説明を求め、勝手に工
事を始められないようにゲート前
に座り込んだのが高江の座り込み
の始まりです。それから住民たち

はずっと平和な普通の暮らしを守
るために座り込んできました。

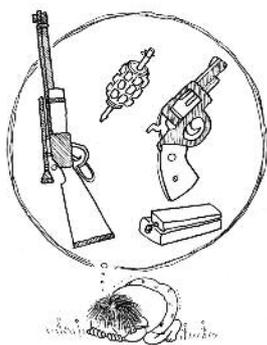
そして、二〇一六年七月一日
の参議院選挙で沖縄の「基地はい
らない」という民意が示された翌
日、住民一五〇〇人足らずの高江
に、約八〇〇人の機動隊が県内外
から送りこまれ、座り込んでい
る人々を抑え込み、工事が強引に始
められたのです。特に七月二日
は夜明け前から機動隊のバスが
続々とやってきて、座り込みをし
ている市民を排除し、ゲート前に
張っていたテントや車を暴力的に
撤去する様子は、同じ日本で警察
によって行われていることとは信
じがたい光景が続きました。この
映画はそれらの様子を生々しく
追っているもので、藤本監督のこ
の異常な事態を一刻も早く知らせ
たいという思いが伝わります。

私も八月中旬に高江に行き、工
事の車両を少しでも止めようとお
尻が火傷しそうなアスファルトの
道路に座り込みましたが、圧倒的
な力の機動隊に排除され、機動隊
員の人間の壁に押しやられ、砂利
を積んだダンパーが何台もゲー
トの中に入ってきました。沖縄
の女性が機動隊員に「あんたたち
戦争のための基地を、森をつぶし
て作るうとしているのわかってる
の？沖縄を何度踏みにじったら気
が済むね」と語り掛け、機動隊員

が目を伏せていたのが印象に残っ
ています。

一月に高江で大阪府警の機動
隊員が住民を「土人」「シナ人」
と発言したことでニュースにな
り、その差別的発言や暴力的な排
除の様子は全国に知られるよう
になりましたが、一二月には形式的
に完成したとされるヘリパットは
米軍に提供され、機動隊は高江か
ら去りました。

しかし工事は続き、天然記念物
のヤンバルクイナやノグチゲラな
どたくさん生き物が住む貴重な
やんばるの森や川が壊され、オス
プレイが大騒音で飛び交い、高江
の住民の生活を脅かしています。
遠い沖縄の美しいやんばるの森
の隣人達の苦しみに、私たちは何
をすべきなのか強烈に問いかけら
れています。



戦争法(安保関連法)廃止 二〇〇〇万署名活動のために

上尾合同教会 阿部孝司

今時、戦争をしようなどと言う人はいないでしょう。安倍総理でさえ戦争はしませんといっている。しかし、この言葉を皆さんは信じられますか。かつてドイツのヒトラーは平和を愛しなさいといっていた。しかしその六年後ドイツはポーランドに侵攻し、第二次世界大戦が始まった。

戦後最悪と言われている安倍内閣は、一昨年九月戦争法を強行採決した。多くの憲法学者が違憲であるといっている。そして多くの国民もこの戦争法に反対している。しかし、安倍内閣は、憲法学者の意見も国民の声も聴こうとしない。これは独裁者のやることだ。私達どうの会(上尾合同教会社会委員会)では、この戦争法に反対し、昨年一月に教会員等(毎週の礼拝出席約一〇〇名)から一〇〇名の署名をしていただいた。

二月には教会付属の幼稚園(児童数約八〇名)の保護者の方にもお願いしたところ一七七名の署名をいただいた。合計二八七名、これは驚きであった。子どもたちを将来戦争に関わらせたくない思いからであろう。

私たちどうの会としては、な

んとしてもこの戦争法を廃止させたいと思っている。

かつて日本の教会は、太平洋戦争の時代に国策に賛成し戦争に協力した苦い経験がある。この反省から戦後、教会は国が平和憲法を守るよう見張りの役割を努めてきた。また、様々な反動的な国の動きに反対し、場合によってはデモにも参加している。

教会は、直接政治とは関わりのない団体であるが、不正な政治の動きに反対し貧困や格差にも抵抗していきたく思っている。いわゆる地の塩としての働きである。

安倍内閣は、この戦争法を平和法というオブラートで包んで、国民を欺き戦争への道を歩もうとしている。さらには、憲法九条を改悪しようとしている。

そこで多くの国民と共にこれに反対し、二〇〇〇万署名を成功させ、安倍内閣を打倒したいと思おう。

各教会の社会活動

(第二回社会活動委員会で報告された中から抜粋したものです。)

□大宮教会(相島兄)

●東日本大震災救援募金 ●川越キングスガーデン「主の園」ティーサービス ●ワークキャンプの実施

(キングスガーデンで草取り、洗

濯物たたみ、縫い物、居室清掃他)

●救援募金(関東東北豪雨)、台湾地震、熊本地震 ●古切手収集 ●社会委員会主催講演会への参加

□桶川伝道所(高橋牧師)

●中越沖地震被災に対する支援献金 ●被災教会への訪問と献金 ●地区の障がい者問題、環境問題、災害問題、差別問題、政治問題をテーマにした諸集会に出来るだけ参加して共有する。

□埼玉大通り教会(沼田姉)

●新春茶話会「気になる社会問題について話してみませんか一回目(二月)二回目(四月)(沖繩、パレスチナ、シリア、福島等) ●第二次世界大戦下における教団の責任についての告白朗読 ●熊本教会への救援募金 ●地区社会委員会主催講演会への参加 ●個人的に沖繩高江の現地へ

□上尾合同教会(阿部兄)

●救援募金(水海道教会、熊本大分地震) ●山谷兄弟の家伝道所・まりあ食堂へ支援物資、衣類など

●「二〇〇〇万人戦争法の廃止を

求める統一署名」 ●平和記念集会(八/一四)テーマ「私達にとって隣人とは：隔ての壁を乗り越えて」(テロ・ヘイトスピーチ・差別・難民・性差・貧困・格差) 出席者六四名

□和戸教会(浅子兄)

●署名活動(狭山事件再審請求・

憲法改悪に対して等) ●平和を求め祈る会(二・一一集会の資料をもとに学習会) ●個人的に「憲法問題」「原発反対」集会に参加

□加須教会(柿沼姉)

●三・一一で加須へ来た人がこの土地になじめない方が来会。このような方の為の催しを計画

□行田教会(清水牧師)

●募金活動に参加 ●個人として「野党を応援する活動」に参加 ●カルト問題に関わる

□浦和東教会(井上兄)

●山谷教会へ物資を ●川口教会(本間牧師) ●募金活動(水海道教会へ、熊本地震へ)

社会委員会報告

◎第二回社会活動委員会及び

第四回社会委員会

日時・一〇月一六日(日)三時〜六時五〇分

場所・上尾合同教会

○活動委員会(出席者一三名)

●映像による共通認識「高江―森は泣いている」の映像から学ぶ(清水牧師紹介)

●各教会の社会活動報告

○社会委員会(出席者八名)

協議

●二・一一集会講師について

●小委員会報告 ●会計報告

◎第五回社会委員会(出席者八名) 日時・一月一五日(日)三時〜五時 三〇分

場所・川口教会

協議

●本年度活動評価に関して

●新年度委員、活動、日程などに

●二・一一集会の準備

●小委員会報告

●会計報告

◎第四七回「信教の自由と平和を 求める二・一一集会」

日時・二月一日(土・休)

場所・上尾合同教会

講演・「社会主義国家を生きるキリスト者」(中国の教会と信教の自由)

講師・薛恩峰氏(桜美林大学チャ

プレン・教員)

参加者・七六名

編集後記

今回の二・一一集会は薛恩峰氏を講師にお招きし、今の「中国におけるキリスト教会と信教の自由」について講演して頂きました。

講演をお聞きして、共産党による

の制約は「戦前の日本」と重なる

思いがし、非常に厳しい状況下に

あることを知らされ、とても有意

義なものでした。(浅子)